

第六話 「げんとうき厳冬期の富士山気象観測に挑むいど」

〜野中到いたる・千代子夫妻の偉業〜

◆気象観測に挑んだ福岡市出身の夫妻

時は明治二十八年（一八九五）のことでした。わが国の近代化は、必ずしも順調にすすんでいたわけではありません。多くの課題をかかえ、苦勞の連続でした。なかでも天気予報の分野は、世界からおくれをとっていました。

たしかに明治八年（一八七五）に気象庁の前身である東京気象台がつくられてはいましたが、実際の指導者は外国の技術者の人たちがほとんどでした。ドイツから派遣されていたクニツピングによって初めて天気予報が出されるようになるのは、明治十五年（一八八二）のことです。

わが国は四季に富んでいますから気象の変化が激しいのです。したがって日頃の天候はもとより台風予報を可能とする研究開発がつよく求められていました。ところが、こうした期